

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000070		
法人名	株式会社 孝生会		
事業所名	グループホーム フォレスト II		
所在地	東大阪市若江東町4-2-5		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795000070&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関に付属しており、医師、看護師、P,Tの意見取り入れ、ADL、体調の維持向上を行っている。また、行事、外出の機会を増やすため、近くのコンビニ、スーパーへ一日一回以上の買物、月2回程、外食、外出。週1回のドックセラピー、デイケアとの交流、地域のお祭りへの参加を行っている。日常では、毎食三回の食事作り、朝に、浮腫み改善体操、創作活動等に参加して貰っている。</p> <p>介護理念： 私たちは「あたたかい心」、「明るい笑顔」でその人らしい活気とゆとりのある生活環境を提供します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念」 私達は、高齢認知症、介護予防の人にとって、なくてはならない存在でありたい。「介護理念」 私たちは、「あたたかい心」、「明るい笑顔」でその人らしい活気とゆとりのある生活環境を提供します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くのスーパー、コンビニへの買物や、地元のお祭りの見学、や初詣でに参加し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	設立し1年満たないホームで力不足の為、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催、現状報告、意見等をきいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する報告、相談を高齢介護課へ連絡、訪問、指導を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本となる、「抑制防止マニュアル」は、作成しているが、まだ職員研修を行うまでは、至っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する、資料を準備し職員に回覧、虐待防止の徹底を図っている。		

グループホーム フォレスト II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、「成年後見人」が必要と考えられる利用者様が入居されており、関係機関へ相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を用いてサービス内容、利用料に関する事項、契約・解約に関する事項、その他に関する事項の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の何気ない会話から、利用者様の意見、要望を引き出し対応している。又、家族様の面会時に意見、苦情の傾聴、意見箱を配置し反映できるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス(改善)提案書を設け、意見や提案を記入して貰い、フロアミーティング等で議題にあげ、話し合いで反映できるよう取り組んでいる。又、会議がある際は、前もって全職員報告し参加して貰えるよう促している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に、業務担当、行事企画を主で遂行して貰えるよう勤務調整し前もって勤務表を配布している。又、自己啓発出来るよう、情報の提供、勤務の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを中心に個々に力が不足している部分を話し合い、改善できるよう促している。今後、外部研修にも積極的に参加する予定をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居住系地域密着型サービス事業者部会に参加し、今後情報交換、勉強会を行っていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、利用希望者、家族様、担当介護支援専門員、ヘルパー等の介護職員、主治医から情報を収集し安心して入居できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに家族様等と連絡、面談を行い、不安に感じている事、困った事を引き出すように努め、不安を取り除けるように対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	連絡・面談時に収集した情報を基に職員間でカンファレンスを行い、今後の対応を検討している。又、訪問看護、往診の必要があれば、関連施設に連絡依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯、掃除、飾りづけ等の日常生活で行っていた事を職員と一緒にやっている。上手く出来ないことは職員が替わって行う。普段から出来る事はして貰える声掛けを行い、出来ない事だけを介助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に現在のグループホームでの生活の近況を面会時、フロア便り等で報告している。今後定期的に、家族会、行事への参加をして頂けるよう企画していく予定。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、御親戚、近所付き合いがあった方々に面会に来て頂いている。外出時には、馴染みのある場所を出来るだけ配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	炊事、洗濯、レクを行う際、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに又、入居者同士が良好な関係が築けるよう、パイ役になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡し現状の報告を受けるようにしている。訪問の必要があると感じた際は、出向いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と落ち着いて話ができる機会を設け、話の中から希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、グループワークの中で検討課題として取り上げ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、親族等の身近な関係の方から、情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、医療からアプローチし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画書の見直しを行うため、カンファレンスを開き見直しを行っている。参加できない方は前もって意見を求めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を介護記録、支援経過記録に分けている。介護記録には、日々の様子を記入し、支援経過記録には、介護計画の援助内容を取り入れ経過、気づきを記入している。、今後の介護計画に反映させる予定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している、デイケアでの行事等に参加しているが、現在他のサービスを希望される利用者様が居ない為、対応していないが、今後、希望があれば、前向きに取り組んでいきたい。		

グループホーム フォレスト II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ民生委員等の方に参加して貰い情報を得て、地域のお祭り等への参加等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明、同意を得てホームの協力医療機関の津森医院を利用して頂いている。希望があれば、他の医療機関へ柔軟に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護による健康管理や相談を記録に残し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様、医療機関からの情報や職員が直接状態確認等を行い情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアの説明を行い重度化、終末期の対応の確認を行っている。又そのような状態の際は、再度家族様等に意向の確認を行い意向に沿うよう対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう意識づけするよう普段から閲覧、声掛けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防隊を配置し年2回避難、消防訓練を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内の個人情報保護規定に沿って職員に周知徹底を行っている。又、普段からカンファレンス等行い職員同士声掛けあい情報の共有、利用者様への接遇や対応に気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々に利用者様と談話できる機会を設け日々の会話の中から思いや希望を表出して貰える様に働き掛けている。又上手く思いや希望を表現できない利用者様には、選択肢を出来るだけ多く準備し、Yes、No方式、表情や目の動きなどで選択して貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや希望を出来るだけ優先し、日常の過ごし方、行事、外出等を利用者様の意思で参加して貰っている。ご自分から希望(表現)されない方も居られるので職員からアプローチし意思や希望をくみ取り支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や更衣の際はご本人に着たい洋服を選んで貰えるよう声掛け行い、身だしなみを整えて頂いています。また訪問理美容を利用して、散髪等の支援を行っています。外出(個別の買物)の際に好みの洋服を選んで貰うなどおしゃれが出来るよう気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間ごとに、利用者様と一緒に献立を作成し、出来る範囲で、食事作り片付けに参加し又見学して頂き食事を楽しんで貰えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事形体、食事量を提供している。又肉・魚・野菜のバランスを考えながら献立を作成している。食事、おやつ、体操後に、必ず水分を準備し飲んで頂いている。水分を一度にとれない方には細めに少しずつ水分補給をして頂き水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回訪問歯科利用し、口腔内の保清、治療を受けている。又毎食後声掛けを行い、口腔ケアを出来る範囲でして貰っている。出来な所や入れ歯の手入れ等は、職員が行いその都度チェックしている。		

グループホーム フォレスト II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、定時にトイレ誘導を行い、それ以外でも訴え、サインあれば誘導している。又利用者様に合わせ日中はリハビリパンツ→布パンツ(+尿とりパット)に替える等オムツ使用を減らしていけるよう自立にむけた対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々に出来る範囲で体操や掃除、家事などを通じて体を動かして貰えるようにしている。また水分摂取量に気をつけ、食物繊維や便通に良い食材を選び提供して。又腹部マッサージやホットパックなど施行し便通を促している。それでも便秘がちな方には便通剤を服用して貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合った入浴方法を実施している。日によって入浴剤を入れるなど入浴を楽しんで頂いている。また入浴を拒否される方等には毎日声掛けを行い入りたい日に入浴して頂いて居る。希望時に出来るだけ入浴して頂けるようにしているが職員の人員等により入浴人数や時間には制限がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが崩れない程度に本人の希望される時間帯に出来るだけ入床して頂いている。眠れない時はフロアにてホットミルク等飲み物を飲んで頂いたり、落ち着いて頂けてから再入床して貰っている。夜間安眠して頂けるよう、日中、買物やレク・家事など積極的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方せんをファイリングし何時でも閲覧出来るようにしている。又、変更時は記録を残し、全職員が把握出来るようにしている。服薬時は、職員同士で、日付、量等の確認を行い、飲まれるまで、見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った家事をして貰い、役割を持って頂いている。又日々のレク・創作活動の他に月に数回企画を立てたレクレーションや誕生日会の日を設け楽しんで頂いている。その他にも他フロアとの合同レクや夏祭り、クリスマス会等のイベントを定期的に行い他フロアとの交流を図っている。2週に1回のドッグセラピー等でも気分転換図って貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買物や全体・グループ・個人と外出を行っている。が希望をされる方はほとんど無く本人の望む(好む)場所に近い場所や季節に応じた場所を考え外出している。今後は家族様と連携をとり個々の希望を聞き出し、外出出来るようにしていきたい。		

グループホーム フォレスト II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者様には、出来る範囲でして頂いているが、管理が難しい利用者様は、職員と買い物に出掛けた際に購入したい物があれば、お預かりしている個口現金から購入して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった際は取り次ぎ、利用者様が連絡したい時は、ホームの電話を使って頂いている。手紙は直接手渡している。必要な方には了承を得て職員が変わりに手紙を読み本人に聞いて貰っている。又返事についても必要に応じて代筆などの支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を感じて貰える様に本棚やソファ等配置し、明るく暖かい雰囲気を作る為、光の調節や、季節感を感じて貰えるように、その月(季節)に合った貼り絵や飾り、置物等を利用者様と一緒に作って壁に貼ったり配置している。又馴染みの音楽やビデオを流し雰囲気づくりを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファを配置しその時々に関々の過ごしたい場所で過ごして貰っている。又居室、フロア以外でも独りになれるよう、少し離れた場所にもソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは備えつけの物があるが、置ける範囲で馴染みの物や家具など使用して頂いている。また創作活動で造られた物や写真を居室の壁やタンスに配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の家事(炊事、洗濯、掃除等)は職員が見守り、一緒に行って貰っている。今後は本人のヤル気を引き出し、活動範囲を広げていきたい。又居室やトイレがわかるように入る位置に名札や写真を貼っている。		